

<平成 30 年度エネルギー特別講座開催要領>

〔開催趣旨〕

パリ協定では長期目標として産業革命以前比で2°Cを十分下回るように抑制するとともに、1.5°C目標も追求するとされました。しかし、1.5°C未満に抑制する排出経路については2014年に出版された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書においてもほとんど評価がなされていないことから、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）は、IPCCに対して1.5°Cのときのインパクトと、1.5°CへのGHG排出経路についての報告書の作成を招請しました。その執筆作業が進められ、2018年10月に「1.5度特別報告書（SR1.5）」が承認される見込みです。本報告書は、1.5°C排出経路に関する最新の世界の科学的知見を集約したものであり、重要な情報が整理されています。また、今後の気候変動交渉にも大きく影響を与える可能性があります。そこで、本エネルギー特別講座では、SR1.5執筆に関わられた執筆者を中心に講師としてご登壇頂き、SR1.5の解説を行って頂きます。また、SR1.5をどう解釈すべきか、またその政策的な影響等についても指摘を頂き、IPCC SR1.5をより良く理解頂くことを目的として開催致します。

〔テーマ〕「IPCC 1.5°C特別報告書について（仮題）」

〔定員〕 60名程度

〔主催〕 エネルギー・資源学会

〔協賛(予定)〕

環境科学会、環境経済・政策学会、環境情報科学センター、国立環境研究所、地球環境産業技術研究機構、地球環境戦略研究機関、日本エネルギー学会

〔日時〕 平成31年1月18日（金）10:00～16:25

〔会場〕 構造計画研究所 本所新館 地下1階 レクチャールーム（東京都中野区中央4-5-3）

〔交通〕 東京メトロ 丸の内線・新中野駅1、2番出口から徒歩1分
(<http://www.kke.co.jp/corporate/map/tokyo2.html> 参照)

〔司会〕 科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター 主任研究員 田中加奈子
地球環境産業技術研究機構
システム研究グループリーダー、主席研究員 秋元 圭吾

《カリキュラム》

〔次第〕 受付開始 9:40

(注)持ち時間にはそれぞれ質疑・討論の時間を含みます(演題は仮題目、敬称略)

	10:00~10:20 趣旨説明 (IPCC の歴史と役割、SR1.5 全体の章構成の説明)	
1	10:20~11:10 第1章「枠組みと文脈」解説 …公益財団法人 地球環境戦略研究機関 研究顧問, IPCC SR1.5 第1章代表執筆者	甲斐沼美紀子
2	11:10~12:00 第2章「排出削減経路」解説 …中部交通研究所 主席研究員, IPCC SR1.5 第2章代表執筆者	小林 茂樹
	12:00~13:00	昼 食
3	13:00~13:50 第3章「影響被害」解説 …国立研究開発法人 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 地域環境影響評価研究室室長, IPCC SR1.5 第3章代表執筆者	肱岡 靖明
4	13:50~14:40 第4章「対応の強化・実施」解説 …キヤノングローバル戦略研究所 上席研究員, IPCC SR1.5 第4章代表執筆者	杉山 大志
	14:40~14:55	休 憩
5	14:55~15:35 第5章「持続可能な発展、貧困根絶、不衡平の低減との関係」 …公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループ研究員	魏 啓為
6	15:35~16:25 IPCC SR1.5 をどう解釈するか、予想される政策的なインパクト、今後の課題 …東京大学公共政策大学院教授	有馬 純

(内容、時間配分は都合により変更することもありますがお了承下さい。)

以上